

【ワシントン＝永沢毅】

トランプ米大統領が18日に公表する国家安全保障戦略は、脅威に「力」で対処する姿勢を明確にする。核・ミサイル開発を続ける北朝鮮とイランは「ならず者国家」として米国の脅威になるとの認識を示す。中国やロシアも現状への「修正主義勢力」として警戒し、両国の影響力が強い地域への関与を強める構えだ。

(1面参照)

北東アジア情勢が緊迫するなか、日本は強い米国のアジア関与を歓迎す

「北朝鮮・イラン、ならず者」

「中ロ、修正主義勢力」

強硬トランプ流安保

る雰囲気強い。安保と経済で米国の影響力が弱まることを懸念している。自民党の河井克行総裁外交特別補佐は18日、都内でトランプ氏の側近とされた Bannon 前首席戦略官・上級顧問と会い、国家安保戦略で意見交換した。河井氏によると、Bannon 氏は「各地域の同盟国との関係深化が必要不可欠である」という基本方針だ」と説明した。

「金正恩は冷静で合理的」

Bannon 米前首席戦略官

自民党の河井克行総裁外交特別補佐は18日、都内でトランプ米大統領の元側近、Bannon 前首席戦略官・上級顧問と会談した。河井氏によると、Bannon 氏は北朝鮮の金正恩(キム・ジョンウン)委員長を「冷静、合理的な指導者だ」と評した。「米国のレッドライン(譲れない一線)を越えることはない」との認識も示した。